

第5回滋賀県産業振興審議会 会議議事録

1 日時

令和元年10月18日(金) 15時00分～17時00分

2 場所

草津市立市民交流プラザ 大会議室
(滋賀県草津市野路一丁目15番5号 フェリエ南草津5階)

3 出席委員

【委員】飯田 敏之委員、大日 常男委員、上村 透委員、小玉 恵委員、
西藤 崇浩委員、島 裕委員、高橋 康之委員、田口 一江委員、
田中 美咲委員、辻田 素子委員、平尾 道雄委員、廣川 能嗣委員、
坊垣 佳奈委員、松井ライディ貴子委員

(18名中14名出席)

【オブザーバー】滋賀県中小企業団体中央会、一般社団法人滋賀経済産業協会、
公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

【県】森中商工観光労働部長、中山商工観光労働部理事、他関係職員

※ 敬称略、五十音順

4 内容

■開会

(商工観光労働部長あいさつ)

・10月16日から環境ビジネスメッセが開催されている。22回を数えているが開会日に休止をする方針が示された。22年前は環境に特化したビジネスメッセは全国でも珍しく大変賑わったが、近年は出展企業も減り、他のメッセに流れていった。22年の間に世の中が色々と変わっていく中で同じようなやり方を続けてきた結果、なかなか企業のニーズに答えられていなかった。

・今回のビジョンでは、変わる、挑戦といったことを前面に出しているが、民間の企業、世の中のチェンジに行政もしっかりと対応していくということを志向していかなければならない。

・本日は答申案の議論に加え、県としてどのような施策を推進していくべきか、ということも議論していただくと伺っている。色々な御知見を御議論頂き、今後の商工行政の推進の糧としたい。

1 ●議題1 滋賀県産業振興ビジョン（改定版）答申案について

2 （資料2、3、4および5に基づき事務局から説明）

3
4 （会長）

5 ・それでは、答申案に関する意見交換、議論の時間としたい。ついては、論点ごとに皆様
6 から御意見、御質問を頂戴し、議論を進めてまいりたい。

7 （会長）

8 ・第4回の審議会ではキーメッセージを「チェンジに向けてチャレンジ！」としていたが、
9 チェンジだけを認めるように受け取られたり、受け継いだものを継承するということが非
10 常に大切ではないかといった御指摘があった。そのような意見を踏まえて第4回の審議会
11 後、委員の皆様にはキーメッセージについての改善案等について御意見を伺った。頂いた御
12 意見をもとに事務局と共に検討し「変化への挑戦（challenge to change）」とした。提案
13 いただいた委員からのアイデアをベースとしている。また、受け継いだものを大切にする
14 ことが伝わるように、副題的に「受け継いだ強みを活かし、次代を見据えた新たな価値の
15 共創」と付け加えた。できればこの案で皆様の合意を得たいがいかがか。

16 （委員）

17 ・英語の話になるが、challenge to ではなく challenge for のほうがよいのでは。to change
18 だと和製英語の感じがする。Challenge は挑戦するという意味以外にも問題、課題といった
19 意味もあり、語呂もあまりよくない。副題のところは、言いたいことが詰め込まれすぎて
20 いて逆に分かりづらい。知っている人は良いがこのキーワードを初めて聞いた人がプロセ
21 スできないのではないか。例えば2文に分けてみてはどうか。

22 ・「次代を見据えた」と「新たな」は意味が重複するので、「次代を見据えた」がどうし
23 ても必要と言うことでないのであれば、不要では。

24 ・「共創」は創造でもよいのではないか。共に、ということであるが誰とかが分からない。・・・
25 全体として、言いたいことが詰まっていると思うが、もう少しさらっとしたほうが、パッ
26 と聞いた人は意味が通じるのではないか。to change だと動詞として入ってくる。for にす
27 ると change が名詞として入る。

28 （会長）

29 ・キーメッセージはこの案で進めていくが、to か for かは宿題としたい。英語表現として
30 しっかり意味が通じるようにする。

31 ・次にビジョン全体を通して意見がある方はいるか。

32 （委員）

33 ・都会で何かチャレンジして失敗してもまぎれて許されるが、滋賀県では地域に長く根付
34 いてお住まいの方は、そこで失敗すると目立つという話を前回もしたが、資料3の16ペー
35 ジに、チャレンジ人材の育成、企業家教育の推進が高校生、大学生からとなっているが、
36 例えば小学校やもっと小さいときから、少し無謀だがチャレンジすることを褒めながら育

1 てる教育体制があれば、起業に限らず逆上がりでも跳び箱でもよいし、少し頑張ろうとい
2 うところを評価するということがあれば、もっと小さいときからあってもよい。起業家教
3 育は高校生からでもよいが、もっと早くても良いとも思う。大学生になれば実際に起業す
4 る学生はたくさんいる。教育という意味でももう少し早く着手しても良いイメージがある。

5 (委員)

6 ・幼児教育は幼児教育で考えなくてはならないが、チャレンジする人はある程度意思を持
7 った人に集まって欲しい。

8 (委員)

9 ・起業家教育ということに特化するのであれば、今の表現でよい。

10 (会長)

11 ・他に御意見はあるか。

12 (委員)

13 ・資料3の13ページに真ん中に「人」があり、進取の気性とあるが、気性と言う言葉に抵
14 抗がある。本来は気概のほうが良い。気概は英語で言えば spirits や guts であり、気性は
15 生まれつきの性質という意味であり英語で言えば nature である。気性は気性が激しい等と
16 使われる。気概であれば困難なことがあっても強い意思があってもくじけない、という意
17 味につながるので、進取の気概がふさわしいと考える。

18 (会長)

19 ・進取の気性は進取の気概に文言を変更することとする。

20 (会長)

21 ・他に御意見はあるか。

22 (委員)

23 ・資料3の5ページに、「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県、とあり個人的に気に
24 入っている。一方で16ページに実証実験のフィールド滋賀とあり、前回これは非常に大事
25 であると発言したが、実証実験が目的になるとよくない。実証実験を何のために行うかと
26 いえば、社会的課題をビジネスで解決するために行う、ということなので、そういった意
27 味合いをもう少し表現できないか。我々も IoT のビジネスを行っているが、多くの会社が
28 陥っているのは実証実験ばかりやって、PoC で終わってしまう。ビジネスで何を解決したい
29 のかを決めずに行っている人の殆どはうまくいっていない。実証実験のフィールド滋賀は、
30 ビジネスで課題を解決するために行うということをもっと少し表現して欲しい。

31 (委員)

32 ・実証実験はあくまで経過であり選択肢でしかない。実証実験をせずとも成功する人もい
33 るかもしれない。むしろ、資料3の16ページのチャレンジする人・企業が集まる滋賀にあ
34 る、社会的課題をビジネスで解決、を実証実験のフィールド滋賀の代わりに表現として置
35 き換えて、実証実験のフィールドはその例とするのはどうか。

36 (会長)

- 1 ・文言の修正等は事務局と相談の上、最終的に整理させて頂く。
2 (委員)
- 3 ・資料3の16ページの実証実験のフィールド滋賀は、社会的課題という言葉をもっと全面的に出
4 していったほうが良い。
5 (委員)
- 6 ・実証実験のフィールドとして滋賀が適切なのであれば、差別化ポイントになりえるので、
7 このままの表現を残しておく必要性もあるのではないかと。私の地元は実証実験のフィール
8 ドとして知られているし、実際に外に打ち出している。そういう環境が滋賀にあるのであ
9 れば、強みになりえるので、手段として落とすのではなく残しておくという考え方もあり
10 つつ、先ほどの議論にあったように社会的課題をビジネスで解決していく、という言葉は
11 パワーワードになりえるので、表現を見直すという選択肢もある。
12 (委員)
- 13 ・滋賀は都会も田舎もあり、交通の便も意外とよいので、社会の課題を色々と実験できる
14 県であり、実証実験のフィールド滋賀が一番大事であると強調したが、ただやはり社会的
15 課題をビジネスで解決するための実験フィールドとして言いたい。
16 (委員)
- 17 ・実証実験のフィールド滋賀という意味合いは賛成だが、社内で見せたときに、実証実験
18 の「実験」という言葉強いのではないかと意見があった。
19 (商工観光労働部長)
- 20 ・熱心な御意見に感謝する。前回から修正した点がありその意図を含めて説明させて頂く。
21 前回の審議会のなかで御発言があった、単なる実証実験だけでなく、広い意味でビジネス
22 モデルを含めて、もっと大きな概念で考えて欲しいといった趣旨を受けて、事務局として
23 は、少し長くて薄まってしまっているが、資料3の16ページのリード文に「新技術を実
24 用化することにとどまらず、新たなビジネスモデルの創出などにつなげていくため」と大
25 大きく位置づけ、それを実現するために4つの視点があるという意味を込めて表現した。た
26 だ、分かりにくい点があったため、リード文をもっとすっきりさせて、あくまで大きなこ
27 とを実施していくために、4つの視点を取り組んでいく、ということを分かりやすく表現
28 する。本日頂いた御意見を踏まえ、会長と調整させて頂く。
- 29 ・もう1点補足させて頂くと、4つの視点は語尾を、語呂も加味して「滋賀」で統一して
30 おり、この部分があまり長くないようにしたい。この部分もあわせて整理をしていく。
31 (委員)
- 32 ・先ほどの実証実験という言葉の強さは、気になっていた。リビングラボを想定するので
33 あれば、実証実験という言葉を使うなら補足がいるのではないかと。実証実験は verification
34 のイメージになるが、ここで言っているのは validation、妥当性確認のことであると思う。
35 実験対象という語感ではなく、社会実装のための共創という意味合いが伝わるとよい。
36 (委員)

1 ・キーメッセージの中に、受け継いだ強みを活かした、とあり色々な意味が含まれている
2 と思うが、産業政策として長い年月をかけて取り組まれてきたことも受け継ぎ活かしてい
3 くという意味が含まれていると理解した。滋賀県は産業的には環境先進県として、長年ブ
4 ランディングし活動してきた歴史があり、環境ビジネスメッセが環境先進県としての活動
5 の代名詞になっていたのではないかと思うが、突然休止するという話になった。県の産業
6 振興を変えていこうというタイミングで、代名詞であった環境ビジネスメッセが休止にな
7 る。毎年のように自然災害が起こっており環境破壊に対する取組をどうしていくかを地球
8 規模、ひいては滋賀県の規模でも考えていかななくてはならない昨今に、SDGs も関わり、そ
9 して今回の変更にあたって環境面に対する取組姿勢や力のかけ具合が大きく曲がっていた
10 ら、もしくは変えるなら変えるにしてもその理由に対して納得できる説明が行き届かなか
11 ったときに、新たなことに取り組んでいても、突如としてなんらかの理由で無くなってし
12 まうのではないか、今までやってきたことにどういう責任をとるのか、といったことに繋
13 がるのではないかと感じる。だからといって、産業振興として環境面を無視していこうと
14 いうことではないはずであるから、どれくらいパワーをかけて、引き続きこれまで築いた
15 環境先進県としてのブランドを滋賀の強みとして取組を進めていくか、明確に発信して
16 いくべきである。

17 (事務局)

18 ・個々の施策である環境ビジネスメッセは休止するが、過去から受け継いできたことをし
19 っかりやっていくことは前回の審議会で指摘があり、キーメッセージに盛込んだ。環境ビ
20 ジネスメッセだけでなく、滋賀県が取り組んできた環境に関わる取組は引き続き進めてい
21 く。ただし、個々の施策について環境ビジネスメッセについては、あり方を考えるため、
22 一旦立ち止まることとなったが、止めるという決断をしたわけではない。例えば SDGs を前
23 面に出し時代にあった形で行うべきではないかといった色々な意見もあり、そこを考えて
24 いく。このビジョンを来年度から進めていこうというなかで、引継いできた強みを活かし
25 ていこうということは忘れずに取り組んでいきたい。

26 ・資料3の13ページにあるように、滋賀県の持ち味として、琵琶湖について記載している。
27 琵琶湖があったからこそ環境の滋賀になっている。また15ページには、これまでは環境産
28 業を振興していこうとしており、環境ビジネスメッセをスタートして行ってきたが、今は
29 多様な分野の産業を振興していかななくてはならないというなかで、当初から議論させてい
30 ただいたとおり、分野の整理ではなく色々な切り口で振興していこうということから、産
31 業を支える要素・側面から産業振興の方向性を探っていく。

32 ・16ページにあるように、社会的課題をビジネスで解決していくための視点として4つの
33 視点を持ち、特に重視して振興をしていこうとしており、こういったビジョンの方向性に
34 沿って、今見直そうとしている環境ビジネスメッセを含め、これから我々が取り組んでい
35 く産業振興の施策についても考えていく。御指摘された部分は、これらの中で組み込んで
36 進めていきたい。

1 (委員)

2 ・誤解のないように言うが、環境ビジネスメッセを復活させて欲しいという趣旨で発言し
3 たわけではない。環境先進県としての滋賀のブランドの力がいずれにしても、今後薄まっ
4 ていくことがないように取組が進められることを願っている。

5 (委員)

6 ・資料3の16ページに健康しがとあり、環境から次は健康に行くのかというニュアンスが
7 一瞬読み取れてしまうが、健康のところを丁寧に読むと、人の健康だけでなく社会の健康
8 や、環境の健康について言っており、今までどおり環境の取組も進めていくというメッセ
9 ージが入っていると思われるが、パッと見で伝わってこないことが問題だと思われる。健
10 康しがの部分の文言を見直すか、これからも環境についての取り組みをしっかりと進めて
11 いくということを、パッと見て分かるような形で表現を改善したほうがよい。

12 (会長)

13 ・先ほど議論があった点に加え、今後、てにをは等の細かい修正が発生することも考えら
14 れるが、今後の修正については私に一任させていただきたいと思うが、よろしいか。

15 (各委員)

16 ・異議なし。

18 ●議題2 今後の産業振興ビジョンの推進について

19 (会長)

20 ・チャレンジする人、企業が集まる滋賀について、最先端テクノロジーを活用できる人材
21 の確保について、県内外からテクノロジー人材を確保するためにどうすればよいか。

22 (委員)

23 ・アクティブ投資家のようなことを言えば、内部留保している金額の何%かを、こういっ
24 たところに投資するというKPIを滋賀として設定してみてもどうか。

25 (委員)

26 ・滋賀大学でデータサイエンス学部ができた。中小企業の人材も、AI、IoTやデータサイエ
27 ンス等を学ぶ必要性があるため、社会人教育を期待している。

28 (会長)

29 ・起業家育成について具体的なアイデアはあるか。

30 (委員)

31 ・先ほど近江商人の進取の気概について発言した。滋賀は過去からの歴史を含めて、新し
32 いことにチャレンジするという土壌は、十二分にあるはずであるが、昨今京都に大きく水
33 をあけられている。京都は官民あげて今後も起業家育成に力を入れていく。滋賀県も官民
34 あげて力を入れていく必要がある、民でいえば投資をする必要がある、官では補助金や制
35 度面の充実をしていく必要がある。官だけでもできない、民だけでもできない。官民あげ
36 て滋賀の元気を取り戻すために、10年後や20年後を見据えた取組が必要である。また、企

1 業も内部留保をしていく必要はあるが、いくらかは、機械や設備だけでなく人への投資を
2 行っていかなければならない。

3 (会長)

4 ・前回の審議会でプラットフォームの重要性について発言されたが、起業家支援について
5 どのようなプラットフォームが必要と思うか。

6 (委員)

7 ・京都には大きな企業がある。京セラ、オムロン等。京都にないプラットフォームという
8 と滋賀にある大学に着目したい。産学連携こそが重要ではないか。当時アメリカで東海岸
9 に産業があり西海岸になかったときに、スタンフォード大学の先生が頑張り新しい産業を
10 興した。行政や県内の各大学という社会的基盤にチャレンジしたい人が入ってくる。それ
11 は、良い先生に出会える、援助してくれる人がいるからだ。そういうものを県主導であれ
12 ば大変であるから、産学で進めなければならない。

13 ・Society5.0 という変化に向けてチャレンジする必要がある。プラットフォームは社会的
14 基盤である。誰かに任せるのではなく、行政、企業や大学がそれぞれ主体となったプラッ
15 トフォームづくりが大切。それは、共通の目的の基盤、チャレンジする人が集まる、実証
16 実験ができる、といったことができる社会的基盤ということイメージすればよいのでは
17 ないか。大学の力と産の力をあわせて、チャレンジする人を育て、あるいは入ってきても
18 らう、といったことができる、明るい希望が持てる滋賀県を作る。

19 (委員)

20 ・チャレンジする人・企業は、どういうものをイメージするか。大津市が女性起業家支援
21 を行って3年目になり、力を入れて取組を進めており軌道に乗ってきている印象を受ける。
22 本当に身近な課題を解決するためにチャレンジする人をどう育てていくか、ということは
23 地域でやってやれなくもない。

24 ・本当に世界に通用するような新しいものを滋賀から発信するということになってくると
25 大学や研究所は極めて必須。神戸であれば理化学研究所を呼んでおり、ある程度絞り込ん
26 だ分野で関係者を集めて世界に発信する。そしてさらに色んな人を呼び込む。そこまで滋
27 賀県が求めるのであれば、かなり踏み込んだ投資、かなり踏み込んだ戦略が必要となる。
28 そこをするのか、皆異なったイメージを持ったままプラットフォーム作ったほうが良いね、
29 と言いつけていると5年10年過ぎていき京都との差はますます広がっていく。京都では南
30 部に国が持っている施設があり、うまく活用してベンチャー系を呼び込もうと画策してい
31 るようなので、そういったことをまで踏み込んで滋賀県も進めていく必要があるのではない
32 か。

33 (会長)

34 ・御社では大学と連携して育休のなかでキャリアアップを支援するといった制度の充実を
35 しているが、県内企業が多様な働き方を推進していくためにどのようにすればよいか。

36 (委員)

1 ・資料3の18ページに起業家・イノベーターを育成・確保とある。また19ページには多
2 様な人材の確保・定着とある。大変大事なことでその下の13の「多様な働き方」とも大い
3 に関連すると思う。働き方もいろいろある。サテライトや在宅勤務などネット社会である
4 から本当にそこに居るのが良いのか、本当はフェイストゥフェイスが良いのであるが、テ
5 クノロジーでカバーできるようになる世界になっていくということを前提とした場合に、
6 雇用形態を守ることだけがよいのだろうか、弊社では一部期限付きの契約社員という雇用
7 も行っている。こういう雇用形態があるなかで、県が大学や研究所を集めてプラットフォーム
8 を作るのシリコンバレーのような成功事例もあるが、乗り越えていくべき課題も多
9 く柔軟に構える必要があると思う。

10 (委員)

11 ・京都は京都市サーチパークがあり、大阪はウメキタ、中之島には阪大の土地があり、ま
12 た2025大阪・関西万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をめざすビジョンを掲げて
13 いる。さて、滋賀となるとコラボしがか立命館大学のインキュベーションの施設か、とば
14 らばらである。京都や大阪は大きいことを行える場がある。実は、滋賀医科大学の裏手に
15 国有地がある。そこに宿泊もできる大々的な研究施設をつくろうという話があった。これ
16 は新幹線の駅ができた暁の話であった。滋賀には大きな場がない。そういう場があるとチ
17 ャレンジ精神を持った企業がそこに行けば何かできるという期待が持てる。

18 (会長)

19 ・将来、女性活躍が大切になると思うが、何か具体的なアイデアはあるか。

20 (委員)

21 ・弊社では75%が女性であり女性男性という意識はなく、むしろ女性活躍といっているほ
22 うが区別のように感じる。県民や企業がビジョンについて議論する場所がなく、当事者意
23 識が薄い。もっとオープンガバナンス等の開けた議論するプラットフォームを全員で作っ
24 ていくべきではないか。

25 (委員)

26 ・発信が足りない。全国を見ていて、滋賀県は、滋賀ってこうだ、というタグがないこと
27 が大きな課題であると感じる。滋賀ってこうだ、というイメージが付くくらいの発信や決
28 めたことを県内の企業に県として産業振興をこう考えているということを知ってもらう必
29 要がある。

30 ・意見交換する場があってもよい。人を外から確保する話もあったので、県外にも滋賀県
31 はここを目指している、こういった取組を具体的に取組んでいこうと考えている、と発信
32 することが必要。発信だけで終わらず中身が伴ってることが大前提ではあるので、決め
33 たことをしっかりやっつけていかなくてはならないが、やっていることを発信すると相乗効果
34 が生まれるのでは。

35 (委員)

36 ・あれもこれも書かなくてはならないのか、という率直な印象がある。全てをやろうとす

1 ると全てを失う恐れがある。新しいこと、できないことをできるようにしようというのは
2 聞こえは良いが、滋賀にあるものをどうするか、滋賀の強みをどう伸ばしていくのか、他
3 県とどう差別するのかということの考えがしっかり入っていないと、結果何も残らなくな
4 ってしまわないかと心配する。取り組む分野を絞ろうという話もあったが、環境は滋賀県
5 の成功事例であることは間違いない。

6 ・発信するにしても全てを発信すれば何もキャッチできない。具体的な実行段階に入った
7 ときに、もう少し明確に滋賀県がやろうとしていることが必要な人に届きやすいように発
8 信の仕方も工夫するのもかもしれないが、発信するものそのものがどうなのか。発信しよう
9 としていること、滋賀県がやろうとしていることをもっと盛込んで、しっかりと築き上げ
10 ていき、できる限り、他の県と同じスタートラインに立つのではなく、ニッチなところ、
11 やらなければならないが中々できていないところ、が必ず滋賀県にもあると思うので、し
12 っかりと見定めて伸ばしていくということが、県の産業政策の戦略上重要な観点ではない
13 か。

14 (委員)

15 ・このビジョンを全部話しても伝わらない。人間は3つ程度が聞いて理解できる限界。そ
16 のなかで、分かりやすいという意味で環境は誰も興味がある。

17 ・地球環境やレジリエンス等について約 2,600 名にアンケートを行った結果によれば、関
18 心がある、絶対関心がある層は、圧倒的に10代である。10代とそれ以上の年代では、もの
19 すごく意識の開きがある。さきほど起業家教育で高校生・大学生とあったが、この分野は
20 彼らに学ぶ必要があるのではないかと。彼らは意識が全く違い、ネットワークの作り方が違
21 う。彼らは、横に繋がるのがとても上手い。例えば、Twitterでこういう考えやこういう主
22 張がある方どうしが集まって、目的を共有できると、途端に Slack に入り、色々なネット
23 ワークをチャットベースで意見を集約することを、地域や企業に関係なくネットワークを
24 作って行っている。そしてすぐ世界に繋がっていく傾向がある。企業人や経済人のマイ
25 ンドでは、そういったコミュニケーションのやり方に慣れていないので、環境意識の高い人
26 達に滋賀の地域に招き来てもらい、やり方を学んでいくくらいに関係を築いていくアプロ
27 ーチはどうか。

28 ・京都は立派な施設はあり R&D の人材も多くいるが、あそこに閉じこもっていても何も情
29 報が入ってこない。京都のイノベーションシーンで熱いのは、町屋を改装して色んな場づ
30 くりを行っているところ。そういう草の根ネットワークがすごくきめ細かくあって、それ
31 が機能していて、人を繋げる役に立っている。その時に、よそ者が京都は入りやすい。一
32 見ではなかなか入れないが、人づてで紹介を受けることで、割と深いネットワークに入っ
33 ていける。滋賀は、奥深いネットワークがあるようだが、外からだと誰に話したら良いの
34 か、どういう情報発信すれば仲間に入れてもらえるのか、分からない。若い人を上手く活
35 用して外部とどのようにコミュニケーションをとっていくのか、というプログラムが動い
36 ても面白いのではないかと。

1 (会長)

2 ・実証実験のフィールドに滋賀を選んでもらうためには、どうすればよいか。

3 (委員)

4 ・全国の多くの都市で、リビングラボ、まさに自分の県の社会課題を一緒に考えよう、テ
5 ーマを提供するから集まってくれないか、実験をするのであれば場所を提供する、色々な
6 応援もする、こういった地域戦略が全国的に動いているが共通の課題にぶち当たっている。
7 色々なプログラムはあるが、支える柱がない。事務局的な機能がない。プロジェクトとい
8 う単位では色々なものが動くが、全体を見て外と繋いだり、中の企業同士を調整したり、
9 あるいは色々な場を設定したりといった機能がとても弱い。そういった機能を行政が行っ
10 ているケースが殆どであるが、行政も人事異動があるし予算は単年度の単位で動いている。
11 経済界は経済団体でとなると、専門性がそれほどあるわけではないので、急にイノベーション
12 を考えようと言われてもなかなかできない。また経済界は市民や NPO とのチャンネルも
13 ない。多くのリビングラボを標榜している地域で起きているのは、公平で中立的で専門的
14 な事務局機能をどう作っていくのか、が大きなテーマになっている。滋賀でもコレクティ
15 ブインパクトという言葉が浸透していると思われるが、つまり社会的な課題を解決するた
16 めに、多くのステイクホルダーが集まり、横に補完的に繋がることによって、大きなビジ
17 ネスの継続性に加えて社会的な効果を生み出していこうという考え方であるが、コレクテ
18 ブインパクトで重視されているのは、事務局機能であり、どう作っていくのかが問われて
19 おり、もし滋賀でこのような実証を進めていくのであれば、そういった事柄を真ん中で応
20 援したり、専門人材を育てたり、企業と企業、あるいは地域内外を繋いだり、といったエ
21 ージェントが必要ではないか。日本にはまだ成功モデルがないので、是非ここにチャレン
22 ジしていくと、滋賀の良い所を外にもアピールすることに繋がるのではないか。

23 (委員)

24 ・チャレンジする、といった精神論をいくら述べても日本は失敗すると思う。アメリカや
25 東京で新しいサービスが色々出てきているが、結局はお金をファンドから貰っており、我々
26 もファンドにお金を入れている。投資してほしい会社のリストが届くので審査して、時に
27 出資する。実証実験のフィールドを提供するとき、ビジネスを起こしてくれるのであれば、
28 お金を出すというファンド機能が滋賀県にあるかないかは、とても大きいのではない
29 か。ファンドは現金の場合もあれば土地の場合もあったり、使用の権利であったりする。
30 何か打ち出していないと、綺麗ごとで終わってしまうのではないか。お金が必要、人が
31 必要、権利が必要ということなので、クラウドファンディングといっても大きなことはで
32 きにくいので、ファンド機能を県として有してはどうか。

33 ・滋賀にいる人だけでなく、滋賀に来るとこういう実証フィールドがあり、ビジネスが起
34 こせるところだと PR し、外部から来てもらいたい。滋賀の実証実験のフィールドを活用
35 しながらビジネスを起こしてもらえばどうか。ただ、滋賀だけのリソースだけだと限界が
36 ある。

1 (委員)

2 ・東京でも0から1を作るのはとても大変なこと。もちろんファンドが機能して上手くい
3 っているサービスもあるが、その裏では上手くいっていないサービスもある。あれだけ人
4 口がいて、意識の高い人が集まったところでそうなのであるから、滋賀でファンドを創
5 生したところで、どれだけ対象となる案件があるか、と思うのでその手前のところから取
6 組まなければならないのではないかと。滋賀も中小企業はたくさんあるので、中堅・大企業
7 の若い人を中心に新しいことをやりたいと考えている人にチャンスを与えられるような雰
8 囲気づくり、土壌づくりができれば良いのでは。

9 (会長)

10 ・前回の審議会でスポーツの力を活用したビジネスの推進について発言があったが、ビジ
11 ネスで実践する「健康しが」について、なにかアイデアはあるか。

12 (委員)

13 ・健康＝ビジネスとなるのは少し抵抗がある。今健康長寿と言って、健康サプリメント
14 や健康器具の市場は大きいですが、早く死なないための技術であったりお金の投資だったり
15 する。人生100年という言葉がでてきており、90、100歳まで生きていて元気な人にどう向
16 き合っていくのか、を時代のなかで考えていかななくてはならない。健康であるということ
17 は若いということではない。健康であって年を重ねている人が増えてきている。歳を重ね
18 ることに価値があり文化があるという視点を失ってしまうと、健康＝ビジネス、若くて元
19 気で良いですね、という薄っぺらな話になってしまう。アジアを含めて私たち日本人は高
20 齢者を敬う考えがあるが、どうも最近は老いたる人を敬う気持ちが劣化しているような社
21 会の風潮があり、そこで健康しがと言い出すと、健康で元気である人には投資をするが、
22 老いて病んでいる人には、社会保障の問題を含めて、いかに安くすませるかという話にな
23 る。是非ともビジネスで実践する健康しがという中でマイナスのイメージで老いるという
24 ことを捉えるのではなく、老いることや歳を重ねることはベテランとか熟練するとか、様々
25 な経験・体験を持っている人が増えていっているという豊かな社会が目の前にある、とい
26 うことを社会や経済でどう活用するのかを考える必要がある。滋賀はこういうことを大切
27 にしているということを応用編で実践して欲しい。

28 (委員)

29 ・資料3の20ページの25番に発酵食品、とあり、食からの健康がある。滋賀は農業も盛
30 んで新規就農したいという若い方々がたくさんいる。食という健康の項目の中で、農業や
31 オーガニックという文言がないので、そういったところを含めて食の健康からのビジネス
32 での滋賀を追加して欲しい。

33 (委員)

34 ・健康しが、は人だけでなく社会も自然も同率であるという考えのもと、この項目がある
35 のに対して施策には人に関するものが多いので、社会や自然も同じ量を入れていかないと、
36 意味合いが変わってくるのではないかと。このままだと人間の健康しが、だと感じる。それ

1 こそ作るだけでなく CO2 削減のように出すものを減らす、という施策があっても良いので
2 はないか。

3 (会長)

4 ・世界から選ばれる滋賀について、どうか。

5 (委員)

6 ・情報を仕入れるとか、物事を呼び込もうとするのであれば、それ以上に発信しないとい
7 けない。何が発信できるかといえば、滋賀の特徴は琵琶湖であったり水環境であったりす
8 るが、大きい意味での環境があるのでは。発信するという事と共に呼び込んでくるとい
9 うようなことになるのでは。大きなテーマに対してあれもこれもできないので、これこそ
10 絞り込まざるを得ないのでないか。そのことで注目を受け、滋賀の名前が知れ渡ることで、
11 新たなものを上乘せしていけるという環境ができてくるのではないか。

12 (委員)

13 ・役所が圧倒的に弱いのが発信力。いくら外に出しても興味があれば読んでくれるだろ
14 うが、いつも思うところとして、学生にバーチャルの場で議論してもらおうサミットのような
15 ものを開催したり、女性だけでこのビジョンのテーマを議論するようなサミットを開催
16 するといった取組みも良いのでは。

17 ・資料3の21ページの35番にインバウンド促進のために、キャッシュレスなど受入環境
18 を整備、とあるが、キャッシュレスを整えたからといって到底インバウンドが促進される
19 とは思えない。世界からみて滋賀県はどのような位置づけになりたいんだろう、というのは
20 若い人であったり、命を生み出す女性が議論して、私たちは滋賀県にこういうように世界
21 から見られたいという形を描いてもらい取り込んでみるという形があってもよい。

22 (委員)

23 ・資料3の20ページの34番の言い方がよく分からず、ダイレクトに伝わってこない。お
24 そらく滋賀のタグ付けのところがなく、海外の人からは何のイメージもない。あえて言う
25 なら琵琶湖くらいであり、マーケティングを含めてここをどうブランディングしていくの
26 かという観点が全く感じられない。

27 ・9月に米原市の観光プロモーションの関係で関空に行った。パンフレットが大量に置いて
28 あったのだが、滋賀県のスペースは本当に僅かしかなかった。半分は大阪、京都と奈良で
29 30%、福井と滋賀が10%という感じであった。こういったところに弱気の姿勢が現れてい
30 るのでは。滋賀県は京都の隣で世界的に見れば京都の影に隠れているかと思うが、これか
31 らの時代、環境といったことがテーマになるので、滋賀県は非常に可能性があると思って
32 おりインバウンドにもつながるはずなので、キャッシュレスだけでなくもっと具体的にす
33 ると深みがでるのではないか。

34 (委員)

35 ・4つの視点に対して、それぞれがバラバラに施策が挙げられており、結局何をしたいの
36 かが良くわからない。交流人口や観光消費の拡大に向けた取組とあるが、このタイミング

1 で書かなくてもよい、と感じる。例えば、発酵産業とあり、健康しがという意味ではここ
2 に入ってくるが、発酵食品といった食のエリアが上手く育てば、それを食べに世界中から
3 人が訪れるといったことはありえるので、目指してもよい。先ほど話があった水環境の関
4 係のビジネスで実証実験のフィールド滋賀として世界に売り出し、チャレンジングな人に
5 来てくださいというのと同時に投資もしてくださいという話になる。色々なことが相互に
6 関係しながら、将来の滋賀の目指す産業をつくっていくということになると思うが、その
7 あたりの関連性がないままバラバラ施策が挙がっており、結局何がしたいのかが分かりに
8 くいので、そのあたりを検討して分かりやすくすることで、県民や県外の人も分かりやす
9 い施策になっていくのではないか。

10 (会長)

11 ・それでは各委員から最後に一言ずつの言葉をいただきたい。

12 (委員)

13 ・「喜びを増す、困りごとを減らす」という良い言葉がある。どこかに盛り込んで欲しい。

14 (委員)

15 ・ビジョンは議会向け等のアリバイ作りで終わらすのではなくどう実行していくか、どう
16 産業に活かすかが大切。若い人や女性に課題を提示し議論してもらうことで何か生まれて
17 くるかもしれない。

18 (委員)

19 ・ビジョンとしては描けたと思う。具体的な施策をどう考えていくかがこれからの大きな
20 課題であり、滋賀の強みを活かした目立つ施策に絞って作り上げればよい。

21 (委員)

22 ・京都、大阪にないほのぼのとした魅力が滋賀にはある。自分が住んでいるところに関し
23 て興味、関心をいかに自分自身を含めて周りに持ってもらうか、ということが大事であり、
24 そのために魅力的なメッセージ等どう見せていくのか。これからの本番である。

25 (委員)

26 ・新しいことにチャレンジする人や起業しようとする人を阻害する最大の要因は、過去の
27 成功体験だと言われている。過去のことは言わない、どんどん自由にやらせてみるといっ
28 たことが必要になるのではないか。

29 (委員)

30 ・ビジョンとしては攻めた内容となっており、従来型ではないアウトプットになっている。
31 人類は目的を自分で作ることができる唯一の生き物である。ここできっちりと目的を作る
32 のではなく、大勢滋賀に来て目的を作ってもらおう。例えばサーキュラーエコノミーであら
33 ば、バイオの方、環境の方、AIの方、中小企業の方、地元のNPOの方が同じように関わっ
34 ているので、一同に集まって議論し、推し進めていくような横串をどれだけ作れるか。県
35 の方が実践していくのだろうが、期待している。

36 (委員)

1 ・方向性を絞ることが必要である。例えば環境、観光、健康などが推し進められていくの
2 だろう。チャレンジするといったことや実証実験等は施策や産業振興に対する姿勢だと思
3 っている。健康しが、は特に力を入れていくということだとも思う。世界から選ばれる滋
4 賀は、まだまだ議論が必要だろう。個人的には健康しが気になる。

5 (委員)

6 ・県民一人ひとりが自分たちのビジョンだと思ってもらえるようにPRや活動を進めて欲
7 しい。

8 (委員)

9 ・実際に行動を起こす人達がどれだけ具体的に成果を出していくかということが重要であ
10 り、自治体の人達が既成概念に捉われず、ルールを壊していくかという点がキーとなる。
11 他の自治体が成功しないのはそこが壁になっている。

12 (委員)

13 ・世界から選ばれる滋賀、に関心がある。この計画が終わりに向かっている頃には、もう
14 少し色々な人達が滋賀に来て活躍しているような光景が見られれば良い。

15 (委員)

16 ・ビジョンは県民、市民の暮らしの現場と密接に繋がっている。実践する場は間違いなく
17 市町に現場があるので、県は市町とのパートナー関係を大事にして具体化して欲しい。

18 (委員)

19 ・これから具体的な施策に落とし込んでいくのであろうが、実際に施策に落とし込まれた
20 ものをできれば見たい。具体的な施策のところでもお力添えができるかもしれない。弊社
21 では主に産業支援も行っているので、様々な市町村の産業支援の実績もあり、具体で協力
22 していきたい。また、ある程度ポイントを絞り込んで世の中に知ってもらうことが重要。
23 予算を割けるのであれば、力を入れた広報を考えてみては。

24 (委員)

25 ・変わるということも大切であり大変であるが、守るということも大変で、伝統を守ると
26 いうこともそれ以上に難しいかもしれない場合もある。観光でいえば、世界の方にアピ
27 ルする際は今まで日本や滋賀が受け継いできた伝統だったりするのであるから、そうい
28 ったものを守るという視点を持ち、次世代の子どもたちが希望を持てるビジョンにして、守
29 るということも大切だと教えながら変わるということを教えていって欲しい。

30
31 ●まとめ(会長)

32 ・施策は、本当にできるのか、あまりにも総花的すぎるのではないか、もっと絞り込みピ
33 ンポイントで進めたほうが良いのではないか、という意見もあった。確かにそういう視点
34 もあるが、まずはやってみて、成功例が出てくると、それをモデルに次の取組がどんど
35 立ち上がってくるということもある。全て総花的に全部一緒に行うのは難しいが、具体論
36 がはっきりしてきたものについては、実験的にやる。小さく生んで大きく育てる。いかに

1 育ちそうなものを見つけるか。そういったことを滋賀らしさを基に、進めていくのが一番
2 良いのではないか。ビジョンとしては将来を目指した良いものができたので、後はどのよ
3 うに具体論に落とし込んでいくか、行政の力だけではなかなか難しいので、県民を巻き込
4 む、若者の力を借りるといった、それぞれの局面で色んな意見を取り込みながら、具体論
5 に落とし込んで、どれに注力するのかを決めて、順番よく進めていくのが良いのでは。

6
7 ■その他

8 (事務局)

- 9 ・10月24日に会長、副会長から知事に答申する。
10 ・答申後は、11月の定例会議に改定状況を報告し、2月に県議会に提案し議決頂く。

11
12 (会長)

- 13 ・これを持ちまして議事を終了させていただく。
14 ・委員の皆様には議事進行に御協力いただき感謝申し上げます。
15 ・それでは、進行を事務局にお返しする。

16
17 ■閉会

18 (司会)

- 19 ・閉会にあたり、森中より一言お礼を申し上げます。

20 (商工観光労働部長)

21 ・細かい文言の調整は残っているが、大筋で答申案をまとめていただき感謝する。
22 ・あくまでビジョンであり、これからの具体が大事である。また、PRや広報、県民・企
23 業をしっかりと巻き込んでいって欲しいというお話も受けて、しっかりと商工観光労働部
24 もしくは県庁全体となって取り組んでいきたい。

- 25 ・今後のフィードバックの方法も含めて考えていきたいと考えている。

- 26 ・約10ヶ月に渡り、熱心な議論頂き改めて感謝する。

27 (司会)

- 28 ・それでは、これを持ちまして第5回滋賀県産業振興審議会を終了させていただく。